

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 55 問で解答時間は正味 1 時間 15 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例 1)、(例 2) 及び(例 3)の問題では 1 から 4 までの 4 つの選択肢、もしくは 1 から 5 までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)、(例 2) では 1 つ、(例 3) では 2 つ選び答案用紙に記入すること。
 なお、(例 1)、(例 2) の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 3) の質問には、1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1)

101 助産業務が行えるのはどれか。

1. 合格発表日以降
2. 合格証書受領日以降
3. 助産師籍登録日以降
4. 免許証受領日以降

正解は「3」であるから答案用紙の③をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	1	2	3	4
		↓		
101	1	2		4

答案用紙②の場合、

101	101
1	1
2	2
3	
4	4

(例 2)

102 助産師国家試験の受験資格が規定されているのはどれか。

1. 医療法
2. 学校教育法
3. 母子保健法
4. 保健師助産師看護師法
5. 看護師等の人材確保の促進に関する法律

正解は「4」であるから答案用紙の ④ をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
102	①	②	③	④	⑤	102	102			
	①	②	③	④	⑤	①	①			
			↓			②	②			
102	①	②	③	●	⑤	③	→	③		
						④		●		
						⑤		⑤		

(例 3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の ① と ⑤ をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
103	①	②	③	④	⑤	103	103			
	①	②	③	④	⑤	①	●			
			↓			②	②			
103	●	②	③	④	●	③	→	③		
						④		④		
						⑤		●		

(2) 計算問題については、□に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：□① □② %

- | | |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

正解は「90」であるから①は答案用紙の(9)を②は(0)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

①	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(●)
104	(●)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)

答案用紙②の場合、

①	②
(0)	(●)
(1)	(1)
(2)	(2)
(3)	(3)
(4)	(4)
(5)	(5)
(6)	(6)
(7)	(7)
(8)	(8)
(●)	(9)

1 国際助産師連盟(ICM)の「基本的助産業務に必須な能力 2010 年」に示されている能力はどれか。

1. 助産師自身の健康管理能力
2. 女性の経済的自立支援能力
3. 幼児を持つ母親への子育て支援能力
4. 母子のケアの社会的、疫学的、文化的能力

2 魚介類に蓄積し、妊婦が過量摂取することにより胎児の健康への影響が懸念されているため、厚生労働省が妊婦の摂取量の目安を示している物質はどれか。

1. 有機鉛
2. 有機リン
3. 有機水銀
4. 有機塩素化合物

3 妊娠中にプロゲステロンの産生の主体が黄体から胎盤に移行する時期はどれか。

1. 妊娠 4 週ころ
2. 妊娠 8 週ころ
3. 妊娠 12 週ころ
4. 妊娠 16 週ころ

4 骨盤腔の区分とその形成部の組合せで正しいのはどれか。

1. 骨盤入口部 ————— 岬 角
2. 骨盤瀾部 ————— 恥骨結合上縁
3. 骨盤峡部 ————— 第2・第3仙椎接合部
4. 骨盤出口部 ————— 寛骨臼内面下縁

5 産褥熱について正しいのはどれか。

1. 乳腺炎に続発する。
2. 細菌感染症である。
3. 持続的な子宮の激痛がある。
4. 37.5℃以上の発熱で診断する。

6 機能性月経困難症の患者で月経血中濃度が上昇しているのはどれか。

1. オキシトシン
2. エストロゲン
3. プロゲステロン
4. プロスタグランジン

7 妊娠 34 週 0 日の初妊婦。非対称性(asymmetrical) 胎児発育不全(FGR)-1.5 SD と診断された。経腹超音波検査で胎児と胎児付属物の異常はない。羊水量は正常。自宅安静と 1 週後の再検査となった。

保健指導で適切なのはどれか。

1. 胎動カウントをする。
2. 乳頭の手入れを開始する。
3. 摂取エネルギー量を増やす。
4. 塩分摂取は 5 g/日以下とする。

8 正常分娩した産褥 5 日の初産婦。産後の経過に異常はなく、母乳分泌も良好である。褥婦が「夫は単身赴任で、私 1 人で子どもを育てられるかどうか心配です」と話した。

コミュニケーション技術を用いた対応で最も適切なのはどれか。

1. 「子育ては母親がするものですよ」
2. 「あなたは大丈夫。自信を持ちましょう」
3. 「心配していると母乳の出が悪くなりますよ」
4. 「心配なことをもう少し詳しく教えてください」

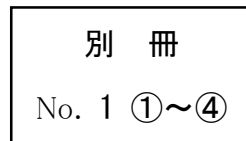
9 乳癌について正しいのはどれか。

1. 妊娠中に治療はできない。
2. 妊娠中の生検は禁忌である。
3. 授乳期にマンモグラフィは禁忌である。
4. 授乳期の反復する血乳は精密検査が必要である。

10 腹部触診法の写真(別冊 No. 1 ①～④)を別に示す。

Seitz〈ザイツ〉法はどれか。

1. ①
2. ②
3. ③
4. ④



11 妊娠 30 週 0 日の初妊婦への母乳育児に向けた説明で適切なのはどれか。

1. 「お産当日から頻回授乳することが大切です」
2. 「妊娠 37 週を過ぎるまでは乳頭には触れないでください」
3. 「お産後は搾乳が必要なので今から練習しておきましょう」
4. 「母乳と人工乳のどちらで育てていくかを妊娠中に決めておきましょう」

12 28歳の女性。33歳の夫と2人暮らし。仕事が忙しく不規則な生活によって体重が減少し、2年前から無月経となった。1年前から妊娠を希望しているが、無月経が続いているため外来を受診し、視床下部性の排卵障害と診断された。身長160cm、体重40kg(3年前の体重53kg)。医師からは夫の検査も勧められている。女性は「これからどうすればいいのでしょうか」と助産師に質問した。

助産師の説明で適切なのはどれか。

1. 「養子縁組をしましょう」
2. 「もう少し様子をみましょう」
3. 「体重を増やすことが大切です」
4. 「夫の検査結果が出るのを待ちましょう」

13 42歳の初産婦。分娩第1期所要時間は12時間、子宮口全開大から100分経過している。Station+2、胎児の矢状縫合は第1斜径で小泉門は1時方向に触れる。陣痛間欠2～3分、陣痛発作40秒。胎児心拍数陣痛図の波形はレベル2である。

アセスメントで適切なのはどれか。

1. 正常経過
2. 微弱陣痛
3. 児頭下降不良
4. 胎児機能不全

14 助産師の利き手が右手の場合、仰臥位分娩での発露時の会陰保護で正しいのはどれか。

1. 左手で児頭を徐々に娩出する。
2. 右手で肛門側から児頭を強く圧迫する。
3. 右手で肛門保護を行い、左手は使用しない。
4. 両手を陰裂に当て、会陰を下方に押し下げる。

15 硬膜外麻酔下の分娩における麻酔の影響で起こりやすいのはどれか。

1. 鉗子・吸引分娩になりやすい。
2. 出生児に呼吸抑制が生じやすい。
3. 子宮復古が遅れやすい。
4. 母体の誤嚥性肺炎発症の危険性が高くなりやすい。

16 出産後の母親の心理的特徴について適切なのはどれか。

1. 産褥早期に一過性に情緒不安定となる。
2. 授乳行動に対する不安は軽減する傾向にある。
3. 産褥5～10日は依存的な態度を示す時期である。
4. 出産について想起できるのは産褥5日以降である。

17 産褥1日、会陰裂傷第4度の褥婦から、縫合部にしみるようで怖くて排尿できないと訴えがあった。

適切な対応はどれか。

1. 膀胱留置カテーテルを留置する。
2. 水分摂取量を減らすよう指導する。
3. 臥床したまま便器を挿入して排尿させる。
4. 縫合部に問題がないことを褥婦と一緒に確認する。

18 32歳の初産婦。妊娠40週4日に経膈分娩で2,840gの男児を出産した。30歳で甲状腺機能亢進症を発症し、プロピオチオウラシルを内服している。妊娠中の血中甲状腺ホルモン値は正常範囲内であった。

授乳に関する説明で正しいのはどれか。

1. 「お薬を減らせば授乳できます」
2. 「昆布を多めに食べて授乳しましょう」
3. 「特に授乳を制限する必要はありません」
4. 「お薬を飲んでいるので授乳はやめてください」

19 不規則抗体による新生児溶血性疾患について正しいのはどれか。

1. 生後10日以降に発症する。
2. 末梢血に有核赤血球が多数出現する。
3. 直接ビリルビン優位の高ビリルビン血症となる。
4. RhD抗原が母親で陽性、児で陰性の組合せが多い。

20 在胎 39 週 6 日、助産所で出生した児。出生時体重 3,800 g。母親の妊娠経過は順調であった。生後 2 時間に振戦があり、血糖値を測定したところ 35 mg/dl であったため、糖水を飲ませた。

次に行う対応で適切なのはどれか。

1. 経過観察する。
2. 次回授乳からは人工乳を補足する。
3. 60 分後に血糖値を測定する。
4. 直ちに搬送する。

21 地域子育て支援拠点事業について正しいのはどれか。

1. おおむね 3 歳未満の児童および保護者を対象とする。
2. ボランティアには子育て経験が必要である。
3. ひとり親家庭生活支援事業がある。
4. 新生児訪問事業を実施する。

22 特定不妊治療費の助成に必要な要件はどれか。

1. これまでに人工授精を受けたことがある。
2. 指定医療機関で治療を受けている。
3. 現在の子どもが 1 人以下である。
4. 治療期間は 5 年以上である。

23 病院で新たに助産師外来を開設することになった。勤務経験 5 年以上の助産師 5 名が担当し、対象は正常経過の妊婦とした。

助産師外来の運営で望ましいのはどれか。

1. 医師への報告基準を作成する。
2. 妊婦の希望する超音波検査を主とする。
3. 正常な経過であれば医師外来の受診は不要とする。
4. 妊婦健康診査の記録は助産師外来独自の記録とする。

24 妊娠 37 週 0 日の初産婦。陣痛発来で入院した。入院後 3 時間で自然破水し、羊水は白色で少量の血性分泌物がみられた。破水後、胎児心拍数陣痛モニタリングを開始した。1 時間後に胎児心拍数が 80 bpm に低下したため、直ちに酸素を投与し、1 分後に回復した。40 分後に遅発性一過性徐脈が出現し、助産師は医師に報告した。児は吸引分娩で出生、Apgar〈アプガー〉スコアは 1 分後 6 点、5 分後 9 点であった。

この事例で改善すべき行動はどれか。

1. 破水した産婦を経過観察したこと
2. 医師の指示なく酸素投与を行ったこと
3. 血性分泌物がみられたことを医師に報告しなかったこと
4. 胎児心拍数が 80 bpm に低下したことを医師に報告しなかったこと

25 2週前に大災害を体験した妊婦。妊婦健康診査時に「小さな物音も気になります。不安になると気持ちが落ち着かず、眠りが浅くなります。あのときのことが思い出されます」と話した。

適切な対応はどれか。

1. 災害のことは早く忘れるよう励ます。
2. つらい体験は胸にしまっておくよう勧める。
3. 誰にでも起こりうる反応であることを話す。
4. これから子どもが生まれるのだから幸せな方だと慰める。

26 妊娠高血圧腎症の診断基準に含まれるのはどれか。

1. 蛋白尿
2. 両下肢の浮腫
3. 低アルブミン血症
4. 血中クレアチニン高値
5. 糸球体濾過量(GFR)低値

27 低置胎盤の胎盤辺縁から内子宮口までの距離を測定し、経膈分娩の可否を判断するのに適切な時期はどれか。

1. 妊娠 20 週
2. 妊娠 28 週
3. 妊娠 30 週
4. 妊娠 35 週
5. 妊娠 38 週

28 在胎 32 週 3 日、1,850 g で出生した児。出生後に呼吸障害は認められなかったが、保温のため保育器に収容した。

出生当日の対応で最も適切なのはどれか。

1. 経口哺乳を開始する。
2. 生理食塩水の輸液を準備する。
3. 保育器の設定温度は 36.0 °C にする。
4. 保育器内の酸素濃度は 40 % にする。
5. 初回面会時に母親にタッチングを勧める。

29 在胎 38 週 0 日、体重 2,300 g で出生した児。小頭症、心奇形および白内障が認められた。

この症例の診断において優先される確認事項はどれか。

1. 妊娠初期のトキソプラズマ感染の有無
2. 妊娠初期の風疹ウイルス感染の有無
3. 母親のアルコール依存症の有無
4. 母親の薬物摂取の有無
5. 母親の喫煙の有無

30 助産師の守秘義務が規定されているのはどれか。

1. 刑法
2. 医療法
3. 母子保健法
4. 保健師助産師看護師法
5. 個人情報の保護に関する法律

31 卵管性不妊症の原因となるのはどれか。2つ選べ。

1. 淋菌
2. カンジダ
3. ヘルペス
4. クラミジア
5. B群溶連菌

32 子宮内膜症について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 経産婦では発症しない。
2. 閉経後に発症しやすい。
3. 発症リスクの1つに喫煙がある。
4. 症状の1つに骨盤内疼痛がある。
5. 治療法の1つに黄体ホルモン療法がある。

33 母乳生成に関与するホルモンで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. プロスタグランジンは乳腺を増殖させる。
2. プロゲステロンは乳腺を増殖させる。
3. エストロゲンは乳汁を生成する。
4. プロラクチンは乳汁を生成する。
5. オキシトシンは乳汁を生成する。

34 新生児において核黄疸の発症リスクを増加させる因子はどれか。2つ選べ。

1. 低血糖
2. 低酸素血症
3. 高カルシウム血症
4. 低ナトリウム血症
5. 代謝性アルカローシス

35 非妊時と比較して妊娠中期に低下するのはどれか。2つ選べ。

1. 耐糖能
2. 肺活量
3. 腎血流量
4. 機能的残気量
5. 糸球体濾過量(GFR)

36 多胎妊娠について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 二卵性双胎の約75%が二絨毛膜性である。
2. 双胎は単胎に比べて妊娠糖尿病になりやすい。
3. 二卵性双胎が生じる頻度は遺伝素因に無関係である。
4. 一絨毛膜性双胎は二絨毛膜性双胎に比べて周産期死亡率が高い。
5. 二絨毛膜性双胎は一絨毛膜性双胎に比べて双胎間輸血症候群を生じやすい。

37 新生児の脳室周囲白質軟化症について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 早産児に多い。
2. 初発症状はけいれんが多い。
3. 病変は左右対称性にみられる。
4. 診断は生後 24 時間以内に行う。
5. 原因は児の高二酸化炭素血症である。

38 分娩第 2 期に側臥位の姿勢をとる利点はどれか。2つ選べ。

1. 胎児の下降が早い。
2. 陰部の浮腫が少ない。
3. 肩甲娩出がスムーズである。
4. 分娩介助者が会陰を保護しやすい。
5. 骨盤を動かしながら娩出力を調節できる。

39 1 歳 6 か月児が行うことができるのはどれか。2つ選べ。

1. 幅跳びをする。
2. 三輪車をこぐ。
3. 押し車で遊ぶ。
4. 積み木を 2 個積む。
5. ままごとで役割を演じる。

40 助産所の開設と管理について医療法で規定されているのはどれか。2つ選べ。

1. 分娩費用
2. 臨時応急の手当
3. 従事者の人的構成
4. 妊産褥婦の収容人数
5. 嘱託医師を定めること

次の文を読み 41～43 の問いに答えよ。

在胎 41 週 3 日、正常分娩で出生した 3,800 g の児。出生直後は啼泣なく、筋緊張も低下していた。皮膚刺激と口鼻腔吸引を行い、吸引した羊水は混濁していた。出生から 30 秒後、弱い自発呼吸が認められ、心拍数 80/分であった。

41 新生児蘇生法ガイドライン 2010 に基づいて管理する場合、このときの処置で適切なのはどれか。

1. フリーフローで酸素投与
2. バッグ・マスク換気
3. CPAP
4. 気管挿管
5. 胸骨圧迫

42 生後 1 時間から多呼吸、陥没呼吸および呻吟が認められ始め、徐々に呼吸障害が増悪した。高濃度酸素を投与したが、中心性チアノーゼが認められたため、胸腹部エックス線撮影を行った。生後 6 時間に撮影した胸腹部エックス線写真(別冊 No. 2)を別に示す。

最も疑われる疾患はどれか。

1. 気胸
2. 胎便吸引症候群
3. 一過性多呼吸〈TTN〉
4. 呼吸窮迫症候群〈RDS〉
5. 先天性横隔膜ヘルニア

別 冊

No. 2

43 生後 1 日に肉眼的黄疸を認めた。児の血液型は A 型 Rh(+)。母親は O 型 Rh(+)。精密検査の結果、ABO 式血液型不適合による溶血性黄疸と診断され、児の交換輸血が必要となった。

交換輸血に使用する合成血の組成で最も適切なのはどれか。

1. A 型赤血球と O 型血漿
2. A 型赤血球と A 型血漿
3. O 型赤血球と AB 型血漿
4. AB 型赤血球と O 型血漿

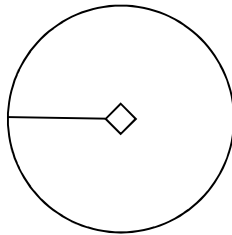
次の文を読み 44～46 の問いに答えよ。

25歳の初産婦。妊娠40週2日。妊娠経過は良好であった。午前5時に陣痛が発来し、午前7時に来院した。身長156 cm、体重64 kg(非妊時52 kg)。胎児推定体重3,320 g。来院時の診察にて、胎児心拍数は130 bpm、第1頭位。内診所見は、子宮口4 cm 開大、展退度40%、Station -1、未破水で回旋異常はない。

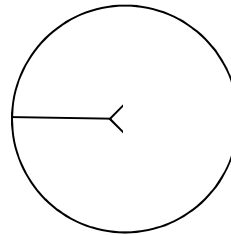
44 来院時の内診所見図で正しいのはどれか。

ただし、図の上が母体腹側、下が母体背側を示し、◇は大泉門、Yは小泉門を表す。

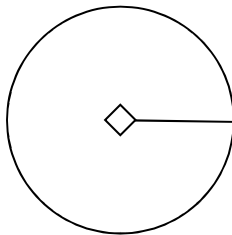
1.



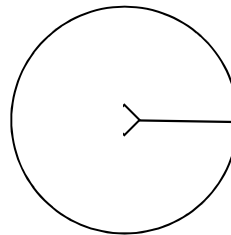
2.



3.



4.



45 午後0時の内診所見は、子宮口6 cm 開大、展退度50 %、Station +1。陣痛間欠7分、陣痛発作30秒。午後0時30分からオキシトシン点滴静脈内注射が開始された。点滴開始後2時間で、最下点85 bpm、持続時間40秒の変動一過性徐脈が1回みられた。胎児心拍数基線130 bpm、基線細変動は正常である。

このときの対応で適切なのはどれか。

1. 絶飲食にする。
2. 体位変換を行う。
3. 酸素を投与する。
4. オキシトシン点滴静脈内注射を中止する。

46 その後順調に陣痛が増強し、午後4時30分に破水した。陣痛間欠1分30秒、陣痛発作60秒。内診所見は子宮口全開大、展退度100 %、Station +3、回旋は正常。羊水混濁を軽度認めた。さらに2時間後に内診したが所見は変わらず、産瘤が増大している。内診後の胎児心拍数陣痛図(別冊 No. 3)を別に示す。

今後の方針で最も適切なのはどれか。

1. 経過観察
2. オキシトシンの増量
3. 鉗子分娩
4. 帝王切開

別 冊

No. 3

次の文を読み 47～49 の問いに答えよ。

Aさん(38歳、初産婦)。妊娠糖尿病。妊娠中は、自己血糖測定、インスリン自己注射を行い、食事は6回の分割食とし血糖コントロールは良好であった。3,100gの児を正常分娩にて出産し母児同室中である。産褥1日。医師からインスリン注射について「今は使用しなくてよいでしょう。今後は血糖値の変化をみながら使用について判断していきましょう」と説明があった。

47 産褥2日。血糖値は朝食前80 mg/dl、朝食後2時間120 mg/dlであった。助産師が訪室すると直接授乳を行っている。

このときの対応で適切なのはどれか。

1. このまま経過を観察する。
2. 飴をなめるように促す。
3. 直ちに母乳を中止する。
4. 直ちにインスリン注射の準備をする。

48 産褥6日。母乳分泌は良好で、授乳は母乳のみで行っている。児の体重は3,150g、経過は順調である。1日の摂取エネルギーは1,800 kcal。退院後、食事療法で血糖コントロールを行うことになった。

退院指導で適切なのはどれか。

1. 「授乳前には軽い食事を摂るといいですよ」
2. 「授乳を30分程度で切り上げて血糖値の変動を抑えましょう」
3. 「母乳分泌量が増えてもこのまま1,800 kcalを維持しましょう」
4. 「母乳を続けた方が、将来Aさんが糖尿病になりにくくなります」

49 出産後6か月、定期検査のため来院し、血糖値は正常であった。Aさんは「退院後は自分の食事療法と初めての育児で毎日が大変でした。でも、最近は自分なりの育児ができるようになり、母乳哺育で頑張っています。次の妊娠のことを考えています」と言う。

Aさんへの説明として最も適切なのはどれか。

1. 「妊娠するたびに妊娠糖尿病は重症化します」
2. 「授乳中の避妊には低用量ピルを使いましょう」
3. 「お子さんたちは糖尿病になる心配はないでしょう」
4. 「次の妊娠は血糖コントロールが良い時にしましょう」

次の文を読み 50～52 の問いに答えよ。

36歳の2回経産婦。妊娠経過は順調であった。妊娠39週5日、2,680gの児を正常分娩で出産した。会陰裂傷はなく、出血量は250mlであった。乳房の形はⅡa、短乳頭であった。今回は人工栄養であったが、今回は母乳栄養を希望している。

50 産褥1日。訪室すると、下腹部をおさえ顔をしかめて直接授乳を行っていた。授乳前の診察で子宮底の高さ臍下3横指、硬度良好、悪露は血性で少量、凝血塊はない。

このときの対応で適切なのはどれか。

1. 子宮収縮抑制薬の投与を医師と相談する。
2. 今回の授乳を一時中断する。
3. 輪状マッサージを行う。
4. ベッド上安静とする。

51 産褥3日。両乳房は全体的に温かく硬い感触である。乳管口の開口数は3～4本で、乳輪部の圧迫で乳汁がにじむ。左乳頭に水疱がある。立て抱きで授乳しており、児頭が不安定になっている。「お乳が張って痛いし、赤ちゃんもうまく吸えないみたいです」と言う。体温37.0℃、脈拍78/分。子宮収縮は良好である。

このときの褥婦への対応で適切なのはどれか。

1. 消炎鎮痛薬の投与を医師と相談する。
2. 乳房全体を冷罨法する。
3. 脇抱きで授乳をする。
4. 直接授乳を中止する。

52 産褥 5 日。1 日の授乳回数は 10 回程度で母乳のみである。左乳頭の亀裂はあるが、痛みは自制内で授乳は続けていた。授乳後に両乳房の緊満は軽減する。褥婦から「家に帰ってからおっぱいに傷ができたらどうしたらいいですか」と質問があった。児の体重は 2,573 g で、前日から 20 g 増加している。経過は順調である。

翌日に退院予定の褥婦に対する授乳の指導で適切なのはどれか。

1. 3 時間ごとの授乳
2. 乳房温湿布
3. 哺乳瓶授乳
4. カップ授乳

次の文を読み 53～55 の問いに答えよ。

県の女性健康支援センターでは、5年前から電話相談を週2日実施している。電話相談は8名の助産師が輪番制で対応しており、相談日には1名が担当している。

53 52歳の女性から電話相談があった。最近、すぐイライラしたり、動悸がしたりして、なんとなく体調が悪い。長女が結婚して夫婦2人の生活になり、夫は仕事で忙しく、ほとんど話を聞いてもらえない。内科を何度も受診したが、薬だけが増え症状は改善されないという。

対応として適切なのはどれか。

1. 「精神科を受診してみませんか」
2. 「薬を一度やめてみてはいかがですか」
3. 「長女夫婦と同居してはいかがでしょう」
4. 「心配事について一緒に整理してみましようか」

54 助産師は女性からの相談を30分傾聴し、断続した不正性器出血があり、閉経が近いと考えていること、体調不良について相談する人が周囲にいないことが分かった。

女性へのアドバイスで優先されるのはどれか。

1. 婦人科の受診
2. 心理カウンセリングの利用
3. 更年期女性を対象とした健康教室への参加
4. 女性健康支援センターの電話相談の継続的利用

55 電話相談の開始当初は、妊娠、出産や子育てに関する相談が主であった。1年ほど前から、50歳前後の女性からの不眠、頭痛、のぼせ、憂うつ、物忘れなどに関する相談件数が増え、約半数を占めている。そのため、女性健康支援センターでは相談を担当している助産師を対象に研修会を実施することになった。

研修内容として最も適切なのはどれか。

1. 脳血管疾患について
2. 月経前症候群について
3. エストロゲン欠乏症状について
4. Alzheimer〈アルツハイマー〉病について

